

札幌青葉鍼灸柔整専門学校 学校関係者評価委員会 評価報告書

開催日時：令和2年5月13日

開催場所：鍼灸棟2階校長室（新型コロナウイルス感染症の影響により書面での評価会議とした）

出席者：水上 弘祥（北海道鍼灸柔整マッサージ師会 会長）

関 克彦（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生：青葉会（同窓会）会長）

吉田 真人（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）

渡辺 潤（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）

加藤 善弘（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 卒業生）

岸野 庸平（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 統括長代理）

岩倉 淳（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 校長）

松永 満（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 鍼灸学科長）

松田 心一（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科長）

富永 敦（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 鍼灸学科教員）＊書記役

武藤 耕太（札幌青葉鍼灸柔整専門学校 柔道整復学科教員）＊書記役

◆司会進行：富永 敦、武藤 耕太

【評価】 A：適切 B：ほぼ適切 C：やや不十分 D：不十分

（1）教育理念・目的・育成人材像について

【評価】 A（適切）

学校の教育理念・目的・育成人材像は明確に定められており、今後はさらにスポーツと介護の分野の需要が増えると思うので、札幌青葉鍼灸柔整専門学校のみならず、学校法人札幌青葉学園が運営する3校が協力しあい、医療福祉に関わる人材を育成していけるように努力してほしい。また、教育理念を把握していない教員がみられることから、更なる人材育成に力を注ぐ必要があると考えられる。

（2）学校運営について

【評価】 A（適切）～B（やや適切）

少子高齢化に伴い若年層が少なく傾向にあり、鍼灸師や柔道整復師を目指す若者も少なくなるなど、社会情勢が変化していく中での学校運営は大変だと思う。その対策として、情報共有の機会を増やすべきであり、さらに全体的な意見交換の場があってもよいのではないかと考えられる。

また、学園本部及び広報室が同一校内にあるが、より一層の連携を強化していくことが好ましく、今後の学生募集についてのビジョンを明確にすることが重要である。

(3) 教育活動について

【評価】 B (やや適切) ~C (やや不十分)

国家試験の合格率が全国平均より低いこと、教員の臨床現場経験が少ないことがやや気になり、今後の体制など見直すことが必要である。国家試験対策の学習面においても、臨床現場に送り出すために技術指導においても、学習・技術を伝授して理解するには時間が必要であることから、教員自身ももう少し勉強した方が学生のためになると考えられる。

また、柔道整復師も東洋医学を少しでも学ぶと治療の幅が広がって良くなると考えられ、臨床現場で活躍できる技術指導については、定期的に連携する関連企業から派遣される外部講師による講義に期待する。

(4) 学習成果について

【評価】 B (やや適切) ~C (やや不十分)

国家試験の合格率が低い。特に柔道整復の合格率が低すぎるのではないかと。学生に甘い教員も見受けられ、教員自身がしっかりとした目的意識を持ち、100%合格を目指して欲しいという厳しい意見をいただいた。学生の学習能力を把握して、できる限り個別指導していく必要があり、国家試験の問題の難易度もあるかと思うが、より一層の対策・改善が必要である。さらに、臨床現場を見越した教育のあり方などを再考する必要があること、業界の実績と魅力を学生に伝えるべきであるという評価があった。また、介護関係の方が安定した収入を得られる場合もあるので、鍼灸や柔道整復のみならず、介護分野も一つの選択肢としていいと考えられる。

(5) 学生支援について

【評価】 A (適切)

今後ますます学生への経済的支援の必要性が高まる。その中で学校独自の奨学金、外部の修学支援制度等が整備されていることは評価できる。また、経済的な支援のみならず、学習等の支援として様々なイベントや部活動を積極的に実施すべきであり、単なる学生のたまり場となりかねない保健室は不要ではないかという意見もあった。

(6) 教育環境について

【評価】 A (適切) ~B (ほぼ適切)

自習スペースや休憩スペース等、学生が学習しやすい環境を整える必要がある。日本語学科の設置を進めているようであるが、今後留学生や入学生の人数によっては共用スペース等の混雑が懸念される。さらに、社会情勢を踏まえ、新たな活動を考えなくてはけない。マラソンボランティア(千歳JAL国際マラソンボランティア)など豊富な教育環境を有していることが評価できる。

(7) 学生の募集と受け入れについて

【評価】 B (ほぼ適切)

鍼灸学科および柔道整復学科は双方とも昼間部のみの設置となったが、社会人のほとんどの人は夜間部を希望していると思われることから、今後、社会人募集の確保をどうすべきか考えていく必要がある。さらに少子高齢化により子供など学生数の減少があるなど課題は多くあるが、他校に遅れをとらないように、より一層の努力が必要であり、どのようにしたら入学者を増やすことができるか打開策を真剣に検討する必要がある。また、より優秀な学生を獲得するためにも、入学選考等をもう少し厳しくしてもよいのではないかという意見もあった。

(8) 財務について

【評価】 A (適切) ~B (やや適切)

適切に処理され、運営されていると思うという評価がある一方で、今後、学生数を増加させなければ運営を正常に動かすことが出来なくなることから、学生に不利益とならない範囲での経費削減を実行し、財務基盤を立て直し、改善すべき点は改善する必要があると考えられる。また、新型コロナウイルス感染症などの影響も考え、有事の際の出費等に対する対策案を備えておくべきである。

(9) 法令等の順守について

【評価】 A (適切)

適切であるという評価であった。また、自己評価や学校関係者評価については、公表を早めに行うべきという意見があった。

(10) 社会貢献について

【評価】 A (適切)

普通に行っているという意見、素晴らしい活動をしているという評価があり、地域貢献やボランティア等はこのまま継続していくべきである。課題はまだまだあり、鍼灸師、柔道整復師が今後どのように社会や地域に貢献できる職種なのか、他の医療職又は他業種とどのように連携していくのか考える必要がある。さらに学校法人札幌青葉学園で設置する歯科衛生や看護などの関連校と連携した社会貢献もできるのではないかという意見もあった。平成医療学園のグループ校で進めている海外研修についても、参加者が少ないことから、今後は入学時等にも学生へ啓蒙し、費用の積立を早急に行うようにしたほうが良いという意見をいただいた。